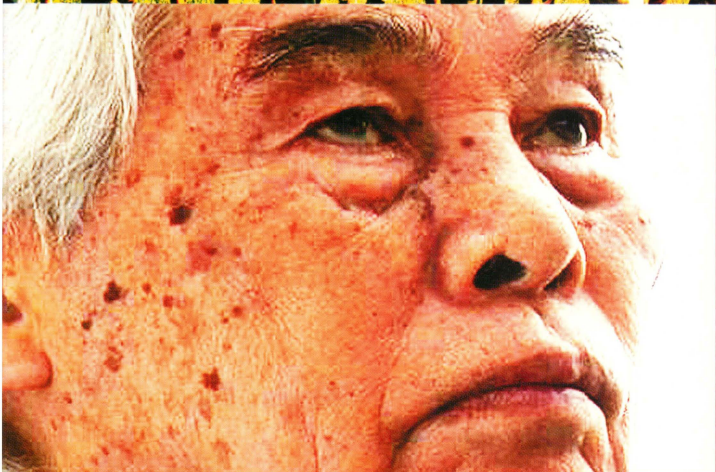




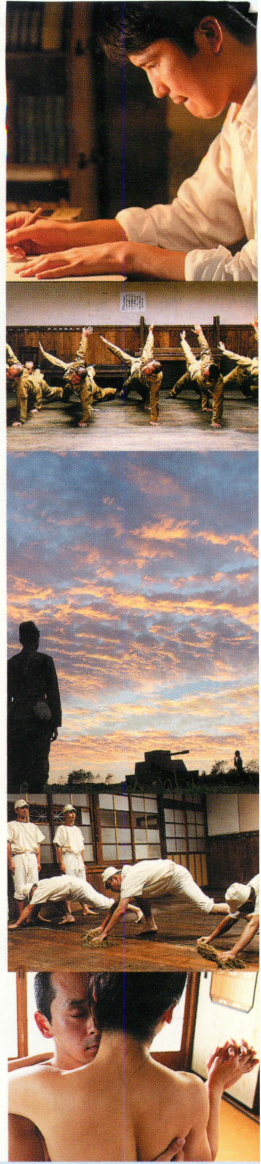
新藤兼人
95歳映画監督
伝えたい
ことがある

監督 山本保博
原作・脚本・証言 新藤兼人
日本映画界最高齢の監督が体験した戦争とは
迫真のドキュメンタリー・ドラマ

蟹江一平
大地泰仁
滝藤賢一
語り 大竹しのぶ
加藤忍
池内万作
若松 力

オカニアガッタゲンカン

www.oka-gun.com



戦争はおかしくて、哀しくて、 厳しくて残酷だ。 この映画を観ればよくわかる!!

一九四四年春、召集令状を受けて、32歳で広島県の呉海兵団に二等水兵として入隊した新藤兼人は、同年六月に宝塚海軍航空隊に配属、翌年上等水兵で敗戦を迎えた。『陸に上った軍艦』は当時の様子を克明に語る証言者としての新藤をカメラが追うドキュメンタリー部分と、彼

の実体験を徹底したリアリズムで表現した再現ドラマで構成。弱兵目線で軍隊という組織の不条理を描き、目をそむけなくなるほど辛辣でありながら、笑いもこぼれる滑稽さに満ちた作品は、脚本新藤兼人の真骨頂であるといえよう。

弱兵戦記 ● 新藤兼人

一年半の兵隊生活であったが、一年間はみつちりと殴られ、精神棒をくらい、前へ支えなどあらゆる体罰をもらった。士官や下士官の中には兵隊をオモチャのように思い、殴って遊ぶヤツもいた。もともとわれわれ弱兵は、彼らから見れば歯がゆい存在であったかもしれない、三十前後のシヤバの生活人だから、動作は鈍く、頭の切れも悪く、殴って蹴り倒したくなるほど目ざわりのものであったのだろう。だが、われわれも日本の兵隊だった。ケツが紫色になるほど精神棒で殴られても脱走などは考えず、命じられれば、火の中水の中でも飛び込んでいく兵隊だった。爆弾が落ちる最中、壕の上に身をさらし、殴り殴られる兵隊であった。日本精神にあふれ、祖国のために指揮をとる立派な軍人にけちをつけるつもりはいささかもないが、お前らはクズだ、と足蹴にされた兵隊も、日本のために闘ってきた一人の日本人なのだ。

多くの戦記読物がある。だが弱兵の記録はない。なぜなら、彼らは穴を掘り、殴られ、雑役に追い回されたただだからだ。そんななじめな戦記を誰が書くか、思い出したいくないのだ、戦争そのものを。



●一九四四年三月三〇日
出征当日の新藤兼人

95歳映画監督 新藤兼人とは

日本映画界最高齢の監督である新藤兼人は、一九二二年広島県生まれ。九三四年に映画界入りして以来、今日まで実に七三年もの間、映画への情熱を燃やしながら、一九五〇年、いち早く独立プロダクション近代映画協会を設立し、インディペンデント作家として自由な映画作りを宣言。『裸の島』(60)、『生きたい』(99)で二度に渡りモスクワ国際映画祭グランプリ受賞。大ヒット作『午後の遺言状』(95)は、日本アカデミー賞最優秀監督賞をはじめ数々の賞に輝いた。最新作『花は散れども』が現在準備中。二十一世紀の今もなお世界の矛盾や不合理と戦い続ける映画界の巨人である。



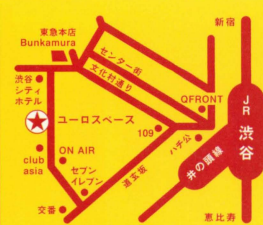
陸に上った軍艦

2007年 | 日本 | 95分 | カラー | ドルビーSR | アメリカンヴィスタ1:1.85
原作・脚本・証言:新藤兼人 | 監督:山本保博 | 製作:平形則安 | 製作会社:ピクチャーズネットワーク
配給:パンダラ (Tel.03-3555-3987 www.pan-dora.co.jp)・シネマ・ディスト | 宣伝:マジックアワー

www.oka-gun.com

7月28日(土)より
千葉劇場 (043)(227) 4591
中央区役所通り www.cinchimax.co.jp

『陸に上った軍艦』公開記念!!
新藤兼人傑作選
8月4日(土)17日(金)
於シネマヴェーラ渋谷
www.cinchimax.co.jp



ユーロスペース
EUROSPACE
渋谷区円山町1-5
(渋谷・文化村前交差点左折)
☎03-3461-0211
www.eurospace.co.jp

上映時間 連日 11:00 | 1:00 | 3:00 | 5:00 | 7:00

7月28日(土)
ほんとうの物語が
ここにある

初日舞台挨拶
新藤兼人・山本保博監督
登壇予定(詳細は公式サイトにお知らせ致します)
舞台挨拶はユーロスペースのみにおこないます。
特別鑑賞券¥1500 発売中
★劇場窓口で買求めの方に限り、
新藤兼人ポスターカードを無料でプレゼント